

琉球大学開学 70 周年記念メッセージ

ここに学長として開学 70 周年記念メッセージをお届けできることを、まことに嬉しく思います。

琉球大学は、戦後間もない 1950 年 5 月 22 日、焦土と化した沖縄の首里城跡地に、琉球諸島の人々の役に立つ学府として創設されました。琉球大学の創設は、「高等教育機関を沖縄の地に」という県民およびハワイなど海外の県系の人々の熱望を実現するものでした。

こうして創設された本学は、ミシガン州立大学の教授団の指導・アドバイスのもと、アメリカの Land Grant 大学の理念の影響を受け、当初より地域貢献、地域振興を大切にしながら活動を展開し、成長してきました。1966 年に琉球政府立大学、1972 年に国立大学、1984 年に西原町の千原キャンパス・上原キャンパスへの移転完了、2004 年には国立大学法人と変遷を遂げてまいりました。

そして今年 2020 年、開学 70 周年を迎えました。当初 6 学部で開学した本学は、現在 7 学部 8 研究科のほか多数の教育・研究施設を持ち、学生・大学院生 8,200 人、教職員を含めると 1 万人を擁する総合大学となりました。また、この間、本学が輩出した 8 万 5 千余人の卒業生・修了生は、琉球諸島地域をはじめ全国そして世界において、社会の維持・発展に大きく貢献しています。

社会はいま、IoT・AI やビッグデータ活用など情報通信技術の飛躍的革新により、知識集約型産業が重要な役割を果たす知識集約型社会へと急速に変わろうとしています。この転換を有効に、そして格差や分断を大きくしないよう適切に推し進めるには、多くの新たな知恵と人材が必要です。このような時代の要請を果敢に受け止め、琉球大学はよりよい未来の開拓の基盤となる研究を進め、それに基づいて優れた人材を育成していきたいと考えています。

本学はまた、「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals; SDGs)」達成に向けた国際的活動の一翼を担う活動に、様々なパートナーと積極的に連携して取り組んでいます。

そのような中、昨年 10 月末の首里城正殿等の消失は、多くの人が胸を痛めるできごとであり、創設期をあの地で過ごした本学にとっても、わが身が焼かれたように感じられます。国内外から、多くのお見舞いの言葉をいただきました。本学はただちに「首里城再興学術ネットワーク」の組織化を開始し、未来につながる首里城の再興に学術面から貢献すべく、大学ならではの活動を進めています。

また、今年に入り、新型コロナウイルス感染症が全世界を襲い始めました。本学は同感染症から構成員の命と健康を守りながら、大学としての責務である教育・研究・社会貢献・診療等の活動を最大限実施し続ける努力をしてきました。この努力を、コロナ後の大学と社会の在り方を見据えながら、全力で継続する所存です。

今般中止となった開学 70 周年記念式典及び祝賀会において、皆様に直接感謝をお伝えすることが叶わず、非常に残念です。しかしながら、式典及び祝賀会で賜るはずだった関係の皆様方からのお言葉を、こうしてご披露できることは大変喜ばしいことです。お忙しい中、温かいお祝いメッセージをお寄せいただいた皆様方に、厚くお礼申し上げます。

これまで本学を見守り、また様々に支援をしていただいた各方面の皆様にあらためて感謝の意を表するとともに、今後一層のご支援及びご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

国立大学法人琉球大学
学長 西田 睦